

第6回 西宮市総合計画審議会 第3部会 議事概要

開催日時	平成30年9月3日(月) 13時55分～16時06分
開催場所	西宮市職員会館 1階 大会議室
出席者	加藤部会長、新川委員、羽田委員、藤田委員、古塚委員、小野委員
欠席者	なし
事務局	田村政策局長、清水政策局担当理事、楠本政策総括室長、四條政策推進課長、岩田政策総括室参事
施策分野 所管局	総務局、土木局、産業文化局、教育委員会
傍聴者	なし
議題(案件)	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 第5次総合計画 基本計画(原案)等について <ul style="list-style-type: none"> 35. 執行体制 17. 生涯学習 18. 文化芸術 19. スポーツ 34. 行財政 3 その他 4 閉会
資料	なし

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局 部会長	<p>1 開会 (連絡事項、資料確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第にあるように、第5次総合計画の執行体制、生涯学習、文化芸術、スポーツ、行財政という5つの分野について審議を行いたい。 ・今日の出席状況を事務局から願います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・6名の委員全員のご出席で、この会議は有効に成立していることを報告する。
	<p>2 第5次総合計画基本計画（原案）等について 【35. 執行体制】 (アクションプラン P87～P90 について説明)</p>
事務局 部会長 事務局 部会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に素朴な質問だが。最後の政策項目が最初に来ている理由は何か。 ・特にないが、全般にかかる内容なので、最初に置いた。 ・言葉の確認とか、表現の仕方等も含めて、質問、コメントいただければ。 ・5番のICTの活用などに関わるが、パソコンが使えない高齢者が多くいると思われるため、インターネットでの広報や周知で完結するのではなく、情報が行き渡っているか等の確認が必要ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同感である。生涯学習などでパソコンの使い方を教えるといった普及の仕方の一つのやり方ではないか。
土木局	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容「④計画的な施設の整備保全」には小学校など学校施設は入るのか。 ・「中長期修繕計画」には学校園や市営住宅は入っていないが、別途、学校園の長寿命化計画を策定中で、同じように取組んでいこうとしている。市営住宅と学校園とインフラ関係以外の、公民館や保育所などの計画である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校など公立の学校については、教室の空調整備は進んでいるが、体育館に空調がないところはほとんどだと思う。夏は地獄のような暑さであり、空調設備を整えていくのも予防修繕に入るのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市のホームページは、見やすいページと使いづらいページなどばらつきがあるので、更新の際に統一してはどうか。 ・いま特に問題になっている障害者の採用について、積極的に対応しているのであれば、そのようにはっきり明示すれば、好感度が上がるのではないか。 ・88ページの上から二つ目の2行目、「監査制度の強化を進めることとなった」、は、進めているのか、これから進めていくのか、どちらかにした方が文章として通りやすいと思うのだが。
総務局	<ul style="list-style-type: none"> ・監査機能の強化については、「地方自治法」の一部改正に伴うものであるためこのような表記とした。内部統制は、まず政令市が義務化された。中核市に

委員	<p>については努力義務であるが、内部のリスク管理、適正な事務執行の仕組みづくりをこれから行っていくところである。結果としていま取組中ということであり、表記の変更については考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用について、西宮市の場合、これまでも採用試験においても枠組みを設け実施してきた。また、市役所に入ってから病気やけがになられた方もおられると思うが、障害者雇用の実態はどうなっているか。 ・メンタルヘルスケアについて、傾向はどうなっているのか。数的に減ってきているのか、増えてきているのか。
総務局	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市は古くから、障害者の雇用枠を設けて毎年度試験を行い、障害者雇用率を見ながら、計画的に採用を行っている。現在の雇用率について、上下水道局 2.5%、市長部局 2.67%、教育委員会 2.63%で、計画どおり適正に行っている。 ・メンタルヘルスについては、復職者の支援に取組み、復帰する職員もあるが、新たに発症する職員も出るという状況であるため、休職者数が増えたり減ったりしている。取組については、予防としてメンタルヘルスチェックなどを行い、一つ一つ丁寧に対応していく方針だ。人数等に関するデータについては、手元に無い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・滞納処分について、「一般会計・特別会計の収入未済額」とは、税以外に、国保保険料などが入っていると思うが、「全庁的な収納対策の取組により、おおむね3分の1に縮減した」とあるが、180億円のうちで実際に徴収できたのは幾らか。いわゆる不納欠損処分を行って減ったのではないか。
総務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当然、不納欠損の分も含まれている。全て回収できた金額ではない。 ・35 執行体制、34 行財政、33 住民自治・地域行政などを見て、何か新しい取組、これから西宮市はこうやっていくというのが見えてこない。10年前に「西宮市行政経営改革基本計画」をつくり、行政経営そのものを抜本的に見直す取組をやった。それがそのまま続いており、新しい取組への仕掛けが見えない。10年前の評価制度、事務事業評価、目標管理、人事管理もずっと続いてきている。グループ制、外部監査もそのまま来ているようだ。 ・絶えずそういった執行体制などの全体的な見直しをしないか、ある意味、時代に取り残されるという感じがする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市税の賦課徴収や収納対策は、組織的に動かないと、原課だけの対応には限界がある。専門家の収納対策チームをつくるという話があちこちである。債権管理も同じ。このあたりを今後どう考えるのか。この書きぶりだと、基本的には原課で対処する予定のようだが、それでどうだろうかという問題提起だ。 ・工事検査の品質については、専門の職員をどう確保できるかが問題で、近年

	<p>では民間に検査を委ねているところもある。西宮市の今後の方針について、検討をした方が良いのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札については、随意契約で対応すべき案件について、考え方の整理をしておく必要があるのではないか。また、総合評価方式などをどう位置付けるのか。最近、公募型プロポーザルも多いが、それらも含め、単純な価格入札では品質を確保できないということがあるはずなので、そのあたりを今後の方針として確立すべきではないか。 ・ICTについては、これからAIとIoTが大きな論点になるので、その展望が入ってないと、将来の計画にはならないと思う。少し検討を。 ・公文書保管だが、歴史資料についての保存に関する仕組みやシステム整備が必要だ。 ・内部統制については、法律で進めよとか、統制基準を決めて公表せよとか、いろいろ出ており、第三者調査もどんどん進めよとなっているので、それで進めていただきたい。議会との関係もあり、どうなるか分からないが、議選の監査委員の条例廃止もできるので、それも含めて検討を。 ・人事管理、人材育成について、職員の入職から退職後までを含めた一貫した人事のあり方を、市としてどう考えていくのかという視点が大事だ。ひょっとすると、「適材適所」のような考え方もあるかもしれないが、従来のような一括採用で、中途も加えながら人を育てていくという方針があるならば、50年かけて仕組みを整備して、いい職員をつくっていくということがあった方が、事務管理も組織管理もうまくいくように思う。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、事務局で相談し、調整していただきたい。 ・人口減少については、西宮は、他の諸都市とは違って、少しのんびりしている感じがする、他市のお手伝いをしていると、相当危機感を持っている。数年後には沈没するという中で、必死で何かをやろうとしている。 ・日本全体の縮小、少子高齢化の中で、西宮も大きな波の中でこれからやっていくわけで、例えばICT活用など、より積極的に西宮が取り組むという方向を示してもいいのではないか。総務省が「自治体戦略2040」という報告を出したが、もう地方自治体は崩壊かと言わんばかりの書きぶりだ。やはり環境変化そのものは西宮も直面するので、そのあたり少し危機感を持って取り組んではどうか。 <p>【17. 生涯学習】 (アクションプラン P43～P46 について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮水学園の話が出たが、例えば団塊の世代の人たちは、公的機関がやっているところへは、寄り付きにくいのではないか。自分たちでいろんな楽しみ方、遊び方が分かっている、そういうのを用意してもらわなくても十分過ごして
	<p>事務局 委員</p>

委員	<p>いけるといった時代になってきているのではないか。また、もっと若い世代はどうかという事を考えると、自治体等がこのようなを用意しないといけないのかは疑問が残る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館にしても、西宮は他市に比べて数的にも多い。もともとは、社会教育のレベルを上げていく、それぞれの地域で社会教育をやっていくということで作られたが、いまや、そこは通り過ぎて、何でもできる施設に変わってきている。 ・ また、地域には、公民館、市民館など、縦割りの中でつくられたいろいろな施設が多数ある。いま、古くなったから建て替えや改修するという考えしか打ち出せていないが、将来を考えると、集約化を図るべきではないか。 ・ デジタルアーカイブが最近すごく充実しているので、その解説と、今後、充実していくことを、例えば、図書館で「知のインフラ」のあたりに追加してほしい。 ・ 44 ページの二つ目の最後、「学校施設の有効活用などの連携を図っていく必要がある」とあるが、その1つ上で、すでに地域交流の場を提供しているという成功例が挙げられているので、下の方は「さらなる連携を図っていく」という方がいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達段階に応じた読書活動として、例えば、『火垂るの墓』、有川浩の『阪急電車』、増山実の『勇者たちへの伝言』など、西宮を舞台にした小説がたくさんあるので、それをアピールしてはどうか。子どもたちに、「自分たちの住むまちを舞台にした小説があるよ」と促し、図書館へ行かせる。本に親しみ、読書好きになっていく。それが、趣味や創造力、勉強にも全部つながっていく。 ・ 学校でも、単に本を指定して読書感想文を書かせるのではなく、興味を持った本を自分で選ばせるとか、読書活動を促進する方法を具体的に挙げたらよい。
委員 教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策分野に社会教育という項目がないのはなぜか、伺いたい。 ・ 社会教育という言葉はないが、生涯学習の理念の下で、理念を実現するために社会教育を、よりしっかりとやっていくことが必要であると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の冊子には、教育の推進の方向として必ず学校教育と社会教育に関する記載がある。アクションプランにも「社会教育と学校教育の連携強化」と記載されており、社会教育という施策分野があってもおかしくはないが、そのようなご理解をいただいているのならいい。 ・ 社会教育では、学校、地域、家庭の連携に公民館がコーディネーターとしての役割を担うよう、文科省などは求めている。公民館がその役割を果たせるかどうか、持続可能な社会教育の成否に関わるので、その点を見据えて文言の検討を。

<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、「地域人材の活用」の前段として、地域で特技をもった人材の情報があまり把握されていない。また、プライバシー保護などの問題があって情報提供できない場合がある。その点は重要なことであり、勘案して、実際に進めてほしい。 ・44 ページの最後に、「・・・生涯学習や社会教育と学校教育の連携強化を図る」とあるが、生涯学習は学校教育と社会教育とは別にあるものという定義でよいか。
<p>教育委員会 部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の中に社会教育も学校教育もあると考えている。 ・そうすると、委員の指摘について、そのあたりも分かりやすく表現してほしい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の概念定義とも関連するが、この案は、これまでの学校教育、社会教育の延長であり、生涯学習に今後期待されるところがクリアに出ていない。社会も、働き方も、人の生き方もどんどん変わろうとしているなかで、子どもたちからお年寄りまで、新しい学びや新しい能力を身に付けていかないといけない社会になるはずだ。そういう展望がないと生涯学習にならないような気がした。 ・公民教育の観点から大きいのは、18 歳選挙権と数年後に民法改正がなされれば成年が 18 歳になること。社会に若い人たちが、権利、義務を持って入ってくることにしっかり構えないと、生涯学習にならないと思う。この点、検討を。 ・三つ目は、民間の教育機能とか文化機能がどんどん出てきているので、そもそも市がやるべきもの、市の役割をクリアに出していかないといけない。
<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は知の拠点、インフラといわれ、本がたくさんあり、司書も最近は大変親切だが、「待ち」の図書館の姿しか見えない。一方、ニューヨーク市立図書館が有名だが、日本も含め、積極的に市民の中に入って行って、市民の方もやってくるという構造の図書館をつくり始めている。「運営体制を再構築し」に期待するが、西宮らしい市民との接点をつくる図書館にしていなければと思う。 ・例えば、大学の図書館との連携について、市民に完全開放のような大学図書館が最近出来はじめている。それらと、競合ではなく、協調するかたちで、「知のインフラ」をかたちづくっていただければと思う。
<p>事務局 委員</p>	<p>【18. 文化芸術】 (アクションプラン P47～P50 について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・47 ページの 1 行目の所に「文化芸術に触れ、楽しむ機会を増やすことより」となっているが、これは「よりも」なのか「ことにより」意味なのか。どちらか。

産業文化局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことにより」である。 ・47 頁の三つ目で、「西宮市文化振興財団、西宮市大谷記念美術館や西宮芸術文化協会等の芸術文化団体と連携し」とあるが、西宮芸術文化協会は確かに芸術文化団体だが、文化振興財団や、大谷記念美術館はすこし違うのではないか。
産業文化局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸術文化団体」は、最後の「西宮芸術文化協会等」のみに掛かる表現である。もし、前の二つにも掛かると読み取れるならば、文言を検討したい。 ・その下に「市民の自主的な文化芸術活動」とあるが、読み方によっては、大谷記念美術館や文化振興財団と、市民の自主的な文化芸術活動の支援について意味が変わってくるので、併せて検討していただきたい。 ・五つ目で「西宮市文化振興財団やホール指定管理者が市内外の大学、高校等々と連携して文化芸術活動に親しむ機会の少ない」と続き、「コンサートや野外でのアート事業を実施しており」と続いているが、ホールの指定管理者がそういう事業を実施しているというのは聞かないが、それでいいのか。 ・②文化芸術の浸透について、辞書によると「浸透」とは、広義には、ものの考え方、感じ方などがだんだん広い層の内部に行き渡ること、「振興」は「学術や産業が盛んになるよう方法を尽くすこと」とあり、ここは「振興」にしてはどうか。 ・二つ目の二重丸は、芸術文化の振興よりも、地域の活性化やコミュニティーの強化との関わりが大きいのではないか。この施策分野に記載することが適切か気になる。 ・一つ目の二重丸に、「西宮市展の充実」があるが、充実の段階を通り過ぎて、見直しという感じで受け取っている。市展は、昔は応募者の4分の3が落選するぐらいレベルの高い市展として高い評価を得ており、それなりの方が応募されてきたが、最近では2分の1ぐらいが入選するレベルにダウンしている。いろいろな状況があるが、市展については見直しをした方がいいのではないか。 ・③文化芸術の施設の整備の項目について、整備の前に、市民ギャラリーの稼働率の向上、あるいは空調の施設、というものについて、検討していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・①文化芸術にかかる人材の支援について、「する人を育む取組」で、発表の場、活動の場を具体的に書いてはどうか。例えば、②にもあるが、小学校活用も一つのやり方だ。廃校になった船坂小学校で、教室1室を一人の作家が使うビエンナーレという活動をしている。教室がこんなふうになるのかと非常に感動した。特に若手の作家が活動する場をつくる、その橋渡しに市の方がなればよい。シャッター街になった商店街をワーク・ショップやアート活動の場

	<p>にするなどの橋渡しを。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、市ゆかりの文芸作家や、作品の情報発信機能の充実を。西宮市の地図に作家のゆかりの地、作品の舞台になった所を示す冊子などをつくって、観光地へ行ったらすぐ分かるようにしていったらいいのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信について、西宮市の「西宮 commons」があるが、さらに細かく、地域のレアな情報を個人で発信されている方も多いので、「西宮 commons」とそういうページをリンクしたら非常に助かる
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・49 ページの④、二つ目で「西宮市における文化財保存と活用に関する総合的な計画の見直しの際に」とあるが、これは、いつごろか決まっているのか。 ・文化財保護法の改正が予定されており、平成31年度に県でいろいろな作業し、32年辺りから市で作業をするようになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・書けるのなら、ここに細かく年度を書くか、もしくは、途中を飛ばして「今後、推進します」というだけで簡単にまとめてもよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アミティについて、課題では、50年を経過しており、あり方も含めた検討が必要とあるが、取組の③の所で、「本庁舎周辺の公共施設の再編整備において、アミティホールの更新、機能改善に取り組む」とある。建て替えの話は5次総の中ではないのか。単なる改修か。今回も天井の張り替えを行うようだが。
産業文化局	<ul style="list-style-type: none"> ・アミティホールの更新については、基本的に建て替えとして、本庁地区周辺の再整備の中でホールの更新、機能改善を考えている。ただし場所は現時点では決まっていない。 ・天井については、東北の震災に伴う法改正で、セーフティーネットと一部補強で天井落下を防止するという方向だ。根本的な耐震強化ではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ということは、この表現は、この10年間で事業費が動くということではなく、方向としては、建て替えを視野に入れて検討していくという理解でよいか。
産業文化局	<ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎周辺の再整備の中での改築なので、この5次総の中で改築の事業費を予定している。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費は34行財政の方で、本庁周辺の整備の方に入っている。 ・了解した。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・もう1点。県の芸文センターは17年にできてから13年ほどたつが、もう少しうまく市と連携ができないか。利用者は、阪神、近畿一円から集まるが、せっかく西宮にありながら、市のものがあまり利用されていない。特に音楽芸術や舞台芸術においては中ホールでできる。市と県の連携の中でもうすこし活用ができないか。 ・芸文センターは、尼崎にある県のピッコロシアターなどと連携している。県同士でやりやすいこともあるが、是非、県の施設と接点を共有してほしい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の施策について、何もかも市が中心となってやるのかと気になった。文化芸術活動は、本来、一人一人の市民のもの。市が何をどこまで介入するのかといえば、活動の基盤や機会をつくること大事で、そこから先は市民が自分たちでつくっていくというのが大事だ。最近のアート・カウンセリング運動などは、そういう趣旨、狙いがあり、文化芸術を西宮で花開かせるためにも、方向の検討を。 二つ目は、これと関連するが、文化財保護法が変わって、保存だけではなく、活用を積極的に考えていかなければいけない時代に入る。文化財について熱心なNPO、ボランティアなど、いろいろな方々の力を文化財活用で積極的に生かしていかないといけない時代に来たと思っている <p>【19. スポーツ】</p>
事務局	(アクションプラン P51～P52 に関する説明)
委員	<ul style="list-style-type: none"> いよいよ新体育館と新陸上競技場が実現するが、新体育館に温水プールをという市民ニーズが非常に高いものがあつたが、いまはそうでもないのか。
産業文化局	<ul style="list-style-type: none"> 温水のプールの要望は一部あつたが、基本計画素案のパブリック・コメントでは要望はあまりなかった。多くの民間スポーツ施設等で温水プールが完備しているのと、整備後の維持費の問題があるため、温水プールは整備しないこととしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートでは温水プールのリクエストが高く、最優先課題になっていた時期があつたが、いまはそうでもないということであれば、それはそれでいい。財政運営において、市民ニーズの高い事業に効果的に財源を配分していくこととの中で、その辺がどうかと思った。 これからは健康志向なので、市民がみんな楽しめる施設をお願いしたい。 陸上競技場は、公式競技はできにくいランクの整備になると聞く。
産業文化局 委員	<ul style="list-style-type: none"> 現状では第4種で予定をしている。 51 ページの下から三つ目で、「サービスの向上を図っており、市民ニーズを反映したスポーツ施設の運営を行う必要がある」とあるが、文末と「サービスの向上を図っており」が合わないような気がする。 その二つ下、「子どもたちが自由に遊ぶことができる」は、文字が抜けている。「が」を入れると、文中に「が」が五つも重なるので、「遊べる場所が少ないため」などでいいのではないか。 52 ページの最後に「既存施設を有効活用する」はすごくいい。そのすぐ上で、新設でお金がかかりそうに見えたところで、それだけじゃなくて、既存の施設も有効に使うからお金を使ってばかりじゃないというのが感じられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> われわれは、トップ・アスリートと親しめる事業として、陸上の朝原さんの走り方教室や、JTのバレー部による今津の体育館を拠点とした少女バレー

産業文化局	<p>育成、サッカーではヴィッセル神戸による講習会、といった交流を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい体育館が 2025 年、陸上競技場が 2027 年にできるが、心配しているのは、利用料の値上げ。民間に経営を任せるのか、そのところを詳しく知りたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館、中央運動公園の整備については、P F I 方式で整備と管理を公募する。使用料等は条例で定めるが、現行とまったく同じというわけにはいかないのではないかと考えている。 ・現状の体育館に関して、数年前から B リーグ（バスケット・リーグ）が来たが、試合がある日は土日を全部、武道場も控え室として押さえられて、体育協会の各種目のスポーツの大会ができなくなり、非常に困っていた。 ・そこで、新しい体育館をつくるにあたって、協会から意見を述べ、サブ・アリーナをつくるという意見が採用された。大きな大会があっても、小さな規模の練習や大会だったら、同日にできる。そういう希望が通り、その点は喜んでいる。 ・スポーツクラブ 21 について、40 校区それぞれの地域でやり方も少しずつ違っている。地区によって、その地域の人だけを受け入れたり、あるいは西宮市内在住だったらどこでも受け入れるというように、ルールを変えているのは少し問題で、統一したらどうか。市としての統一見解を出したらいいのではないかと思う。 ・指導者の育成だが、一番早いのは、例えば子どもが剣道をする場合、お父さんが経験者だったら、指導者として引っ張り込み、お手伝いをしてもらうこと。子どもが卒業したら、一緒に辞めてしまうということもあるが、それでも今後も続けていってくれるよう、指導者の確保のためにそれぞれ努力しているのが現状だ。 ・また、指導者養成のために講習会を、大学の競技をやっている人たちと一緒にできたらなというのが、今後の希望だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮では、甲子園球場と芸術文化センターの二つは一流だと言われている。私が実業団のバレーの大会を見た尼崎の体育館は、大変、素晴らしかった。また、尼崎の陸上競技場で、子どもたちを連れてリレー大会に参加したが、あの素晴らしさ、アンツーカーの美しさを見て、子どもたちと共に元気が出た。 ・トップ・アスリートと親しめる事業も大事だが、一流の選手が競技できる施設があるということも素晴らしいことだ。子どもたちが育ち、憧れ、夢の創出につながる。第 1 級の施設をつくっていただけたらというのが私の希望だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・52 ページ①の最初に、「年齢、性別、障害の有無を問わず」とあるが、取組で

部会長	<p>は、高齢者スポーツや障害者スポーツがないことが気にかかる。また、これからの時代、世代を越えてスポーツが市民の中に広がっていくというのは、狙いとして大事ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つ目は、いま、スポーツが、競技としてだけではなくて、健康、あるいは成長という施策に関わって議論されている。健康づくりや教育との連携ということ、しっかり考える必要があるのではないか。 ・また、学校教育の中での体育、クラブ活動や、それが市民との関わりの中で、これからどう裾野として広がっていくのかという観点も大事ではないか。 ・経済学から見て、スポーツというのは一種の準公共財として捉えられる。公共的な領域の特性を持っている一方、マーケットの中で役割も果たし、利益も生み出す。中間的領域がどんどん大きくなっているのがいまの時代で、いろいろな意味で魅力的でもあるため、スポーツの領域、計画も検討できれば良いのではないか。 ・ある報告書で、日本は、施設は一流だが、仕組み等については、まだまだという評価があった。いま、いろいろな所で起きているアマチュアスポーツ界のダブルを連想させるが、西宮で、体育館、競技場施設をつくるのと同時に、ぜひとも、ハードウェアに呼応するソフトウェア、制度、仕組みの検討をしてほしい。 ・また、もっと重要なのは、ヒューマンウェア。人的な、人間関係も含めた、教育との連携も入ってくると思う。それらをパッケージして、西宮市のクオリティーの高いスポーツに向けて、計画をつくり、進めていただきたいと思う。
事務局 委員	<p>【34. 行財政】 (アクションプラン P83～86 に関する説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体が芸術文化協会なので、文教住宅都市として、まちの至る所に芸術作品があって、音楽が聞こえてくるようなまちであつたらいいと思う。 ・例えばこの部屋には、どこにも絵が飾ってない。私たちは、行政に、市庁舎とかまちのあちこちに作品を展示して市民に見ていただきたい、いつでも作品を提供すると話しているが、なかなか取組をしてもらえないという現状がある。 ・今後も、今述べたようなまちを目指して、総合計画で頑張つて取組んでいただきたいと思う。 ・⑧広報力の強化については、市政ニュースは確実に届いている。他の文書についても確実に届く方法として、この市政ニュースの配布に乗せてできないだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報力の強化は永遠のテーマと思う。スポーツイベントをするときにポスタ

	<p>一やホームページなどいろいろ広報をするが、やはり市政ニュースは確実に届くので、もっと魅力的に、子どもからお年寄りの方まで、みんなが読めるような工夫を。例えば「西宮 Walker」のようなづくり方も。また別の冊子として、楽しいイベントだけ特集した1枚の紙でもいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの「西宮コモンズ」も、読みやすい。スポーツ欄に、30年以上前に、市とルールづくりに関わったクォーターテニスの紹介もあった。市民の間でも盛んになっており、そういうのをアピールしていけるホームページはいいと思う。 ・ 取組内容②広域連携の推進で、「先進他都市での事例を参考にしながら本市において広域連携や相互利用が可能な事業を調査研究」とあるが、具体的に進めてほしい。阪神大震災のとき西宮は壊滅的な打撃を受けていても、武庫川を渡ったら尼崎は別世界で、風呂に入りに行った経験もある。隣の市との連携も、防災訓練を両市で共にやるとか、医療でも、こっちの病院がつぶれたら、すぐに受け入れられる体制があるといったことを具体的につくっていったらいいのではないかな。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「西宮コモンズ」のプロモーション・サイトに、「西宮スタイル」という、内容が濃いサイトなどともリンクを貼ったら、もっと充実するのではないかな。 ・ 市政ニュースを端から端まで読んでいるが、子供向けのイベント案内などが付いた子供版の市政ニュースがあればいいかなと思う。お金がかかるが。 ・ もう一つ、広報に関して、回覧板が私たちの地域では、強力な案内になっている。持って行って、ちょっとお話をするとかにもつながるので、古い手法ではあるが、意外といい。ただ、もうすこし目を引くデザインを。そのままバケツリレーで次のお宅へ持っていかれる方もいるので、いいデザインでつくったら、隣近所とのコミュニケーションにもなるのではないかなと思った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状と課題の一番初めに「分野横断的な長期ビジョンが求められており」と、非常に強い調子で書かれており、いままでも、分野横断的な長期ビジョンが求められていたのかなとも思ったりもしている。 ・ また、取組のところで「20年、30年先のまちの将来像」とあり、これから、さらに人口減少や高齢化が進んでいくという話になるが、そんななかで、明るい見通しが持てるのかということも気になる。 ・ 結局、そこにいくまでの過程が大事だ。20年、30年先というのは人口構成も変わるし、違う社会になる。そこへ、どうやってもっていくかが大事と思う。 ・ 二つ目の広域連携。これは地域住民、市民の十分な合意形成をやったうえでないと取組んだら駄目だと思う。 ・ 三点目、広聴について、いろいろなかたちで市民ニーズを捉えたいというのは分かるが、いつも言うことだが、個人市民だけ考えて、いわゆる企業市民

<p>委員</p>	<p>とか法人市民が置き去りにされている。そうではなく、しっかりとそのなかに取り込んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②広域連携では、個別のテーマあるいは地域課題ごとに考えていかないと、一般的に「連携」と言ってもほとんど意味がない。防災、教育、医療、福祉といった分野でも、これから、例えば市の北部等の問題も踏まえて考えないといけない。 ・③行政マネジメントでは、やはりマネジメントという以上、PDCAで考えるという観点で、評価をきちんと位置付けていくことが必要だ。 ・④民間活力について、当然、こういう時代なので、活用しないといけないが、活用と同時に、それが本当に市民のためになっているかどうかというモニタリングについて少し力を入れていただければありがたい。 ・⑤財政運営については、行革、無駄を減らして財源を確保するというところに目を向けがち。出入りからするとそのとおりだが、どのように財源を収納していくのかという視点もあっていい。 ・⑥公共施設マネジメントについては、89ページの施設の計画的な修繕と重なっている。ここは、どんなふうに整備するのか、少し気になったので、後で検討を。 ・併せて、課題では出ているが、インフラのことが取組内容に出てこない。都市インフラの将来をどうするのかというのは、とても大きな論点と思う。 ・⑦シティ・プロモーション、⑧広報力のところで、とても前向きないい活動をしているが、ICTとか、市民の情報だとかを活用する「シビック・テック」というのが、いま、世界中ではやっている。日本でも千葉だとか鯖江だとか、いくつかあるが、そういう視点で、もっと入ってきてもよいのではないか。 ・最後に、⑨広聴機会で、アンケートや広聴会はどうしても言ってくるのを聞いてあげるといったイメージが強い。「テーマ設定や実施方法について工夫」という以上、もう少し市民の中に入っていき、一緒に考えるという視点必要だ。 ・先ほど発言があったが、企業とか、各種団体だとか、問題に対する利害関係が濃い人たちと一緒に議論をすることは、これからもっと大事なことのような気がするので、この辺り、少し書きぶりを工夫していただければと思う。 <p>部会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行財政の議論を始めると、本当はもっといろいろなことが出てくると思うが。 ・委員の皆さんの意見について、書きぶり等々にも配慮して検討していただければと思う。 ・私としては、広域連携が一番気になるところ。市長がトップにいて議会があ
-----------	--

事務局	<p> るということは要するに、現実的には広域連携をしません、という地方の仕組みをつくり上げてしまった訳だ。人口規模が大きい間はそれでいいが、全体が縮小化に入ったときに、非常にギクシャクする。市民にとって、本当にそれがいいのか。このままどおりでいいのかというと、私はそうではないと思う。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういう意味で、調査研究するとあるが、もう一步踏み込んで、連携をする試みを一度やってみて、やりながら功罪を考えていくようにしてはと思う。 ・日本はまだ、広域連携は調査研究の段階で、関西広域連合がやや実験的につくられたと思うが、欧米では、どこまで一体化するのかまで議論が進んでいるところもある。その辺りも参考にしながら、ぜひとも広域連携を進めて、一緒に考えていただければと思う。 <p> 3 その他 (次回審議会について連絡 第3部会:9月26日(水)午後2時～) </p> <p> 4 閉会 </p> <p style="text-align: right;">終了</p>
-----	---